



秋になっても、日本は雨が続き、水害が頻発しています。ポーポキは、みなさんの無事を祈ります。読者のみなさんや家族、友人もご無事でありますように。

Popoki's Hot News!



COMING SOON!

10.17 平和と健康ワークショップ at 兵庫医療大学！
14:00～16:00 詳しくは本号の12,13ページを参照。
お待ちしております！



ポーポキのピース・ブック3や「ポーポキ友情物語 ～東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅」！

ポーポキのピース・ブックシリーズの3冊目、『ポーポキ、
元気って、なに色?』や、ポーポキのほかの本は、お近く
の本屋さん、出版社エピック (<https://bookway.jp/epic/>)、神戸
YMCA、ポーポキ・ピース・プロジェクトから入手できます。
ご注文、およびご感想をお待ちしています。



「一言の平和」コーナー

ポーポキのお友だちのかおにゃんから届いた平和。

「梯（うんてい）が、手にマメがなくてうまくできたとき、平和。」

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。
ポーポキのメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com) !



NEW! 瀬チャ



レンジ 2015 のビデオ!!! ポーポキの URL か下記のリンクでどうぞ!

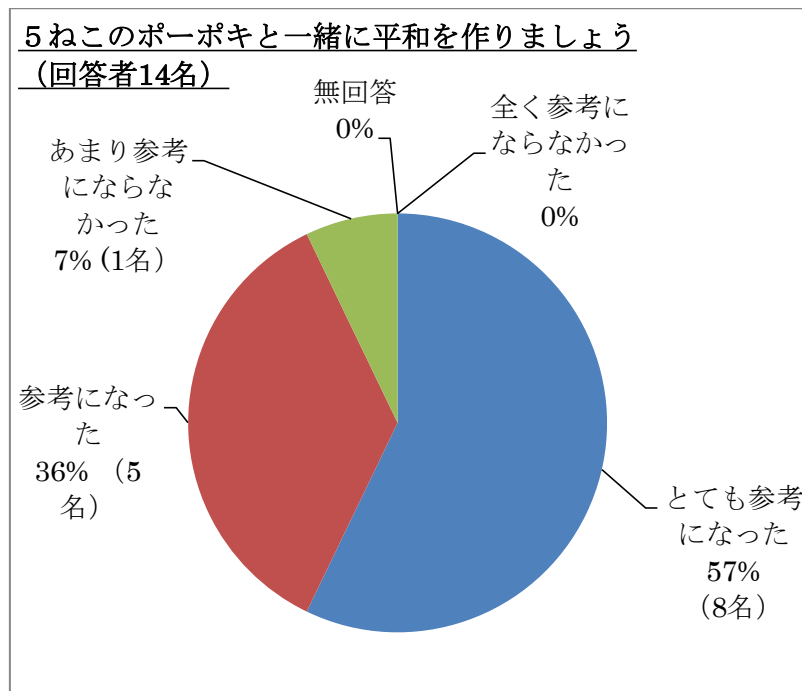
<https://youtu.be/7LcYzZzNQYg> and

<https://youtu.be/WYdWwmwogkE>

～ねこのポーポキと平和をつくりましょう！～

ろにゃん

今年もポーポキが「多文化共生性のための国際理解教育・開発セミナー」にやってきました。8月10日～11日の二日にわたるセミナーは、合同セッションと、参加者がそれぞれの興味に沿って自由に選ぶことができる分科会で構成されています。例年だとポーポキは二日目の最後の時間帯に入りますが、今年は初日の基調講演の後でした。例年より人数は少なかったため、こじんまりとしたセッションになり、人数が少なかった分、誰もが発言でき、充実したセッションでもあったと思います。参加者のほとんどは学校の先生で、このセミナーの参加者の中で、自らの教室で利用できるネタをさがしている人が少なくありません。それを意識して、ポーポキがそれぞれの教室に登場できるようなワークショップ内容を考えました。ワークショップ後にアンケートを書いてもらったが、以下は主催者が回答をまとめたものより抜粋したものです。



「とても参考になった」と回答した方からのコメント：

・学校レベルで考えられる国際理解教育の方法を模索していたから。・自分で「平和」を考え、それをグループで異なる意見なども共有できたから。・平和について自分がいつも考えていたことと、共感できる部分もあり、新しい発見になった部分もあり、本当にいい機会になりました。平和について、難しいけれどこれからもしっかり考えていきたいと思います。・楽しく面白くできた。・課題は時間が短かったけれど、とても考えさせられる時間だった。戦争の反対が平和とは限らないと分かった。

「参考になった」と回答した方からのコメント：

・体を動かして参加することで、より平和や国際問題について考えることができた。・頭を使ってしっかり考えることができました。ありがとうございました。・小学生を担当しているので、見えそうな部分と、言葉が難しそうで無理かと思う部分があった。少し工夫して利用したい。ロープは使えると思った。

以上のように、参加者によりこんでいただいたようです。今後は、コメントを参考に、参加者にとってもっとも役に立つようなワークショップを企画したいと思います。

今回もご参加、ご協力・ご支援、ありがとうございました。

「放射能を浴びた X 年後」上映会 & 対談

ろにゃん

8 月 9 日に神戸大学で神戸大学学生ボランティア支援室主催による「放射能を浴びた X 年後」(伊藤英朗監督)の上映会と伊藤監督とろにゃんの対談が開催されました。ポーポキの企画ではありませんが、とても貴重な内容でしたので、ここで簡単に報告します。

日本人なら「第五福竜丸」ということばを聞いたら、1954 年 3 月 1 日に行われたアメリカの水爆実験によって被ばくしたマグロ船だとわかる人が多いでしょう。けれど、アメリカの核実験によって被ばくした船はその一隻だけではありません。実は、第五福竜丸のほかに約一万隻の船とその乗組員も被ばくしているのです。それらの船は日本に帰ってきたとき、マグロは線量計で放射能が図られ、そして多くは廃棄されました。人々も、ガイガーカウンターを当てられて〇〇カウントと言われたが、その後なにも治療も助けもありませんでした。そして、彼らの被ばくの事実はなぜか、関係者以外に誰も知らない。

南海テレビの伊藤監督は、2004 年に第五福竜丸以外の船の被ばくについて偶然に気づき、取材することを決めました。彼は被ばくした人々を訪ねようとしたが、みなさんは口がたたく、なかなかしゃべってくれませんでした。しかも、その当時でも生存者はほとんどいませんでした。こつこつと取材を続けた伊藤監督は、少しずつ被害者とその遺族の信頼を得て、被ばく当時とその後の苦しみを描くことができるようになりました。それは「放射線を浴びた X 年後」という映画と、同じ題目の本(講談社 2014 年)によって公開されました。

今回の上映会に約 70 人が参加しました。上映後の対談では、「沈黙を問い直す」というテーマで、こんな事件があったのに私たちはなぜ知らないのかについて話しました。参加者は神戸大学の関係者だけではなく、市民もたくさん来てくれました。中には、福島第一原発事故のために関西に移住避難をしている方々や反原発運動をしている方々、平和運動、反安保法制の活動をしている方もいて、とても活発な議論が展開されました。私は、こういう会に参加できて、本当によかったと思いました。ありがとうございました。



東北で平和を探す

みによにゃん・イサにゃん
和訳：ろにゃん



ポーポキは、仲間と一緒にバスや電車に乗って、神戸から東北へでかけました。

彼らは、座席に丸まって、アムールヒョウの赤ちゃんや太平洋にある温かい島について語り合いました。彼らが東北に向かっているのは、そこに済むトラたちやウサギたちが、平和を見つけ出しているかを知りたいからです。

ポーポキもさとにゃんも東北に行ったことがあります。でも、仲間にとってははじめてです。



仲間の一人は、毛がふさふさのチャモロ系の子ねこで、体が大きくてバスの席にかろうじて座ることができました。彼は、太平洋に浮かぶ「グアム」という島の出身です。そこでは、「ミナガヘト」（チャモロ語で「真実」を意味する）と呼ばれています。日本では、みによにゃんと名づけられました。

みによにゃんと一緒に来たのは、友人のイサにゃん。彼女は、海のないうちの国からやってきました。彼女の国には、果てのないトウモロコシ畑が海のように永遠と四方に広がっています。イサにゃんは、元気いっぱいの子犬で、どこへいってもその場が明るくなります。グアムに住み始めたころ、「レインボー」を意味する「イサ」という名前をつけられました。日本でポーポキは、彼女を「イサにゃん」と呼ぶことにしました。

四年前のある日、東北で地が大きく揺れました。そして、その揺れが大きな波を生み出しました。多くのまちが破壊され、たくさんのトラたちが流されました。発電所という恐ろしい毒をつくる機械も破壊されました。その機械の中にあつた目に見えない毒は、地震によって放出され、風や波にのって川や山、森に広がりました。その結果、たくさんのウサギたちは、おうちから逃げなければならない羽目になりました。

当時、グアムにいたみによにゃんとイサにゃんは、この地震と波の話を聞いて、東北のトラたちやウサギたちの平和のために祈りました。グアムの動物たちは、「平和」を表すのに「イナファ マオレク」と



という言葉を使います。意味は、「みんながしあわせで良い生活ができるように、すべての動物たちが協力しあってお互いを支えあう」ということです。みによにゃんとイサにゃんは考えました。東北の動物たちは、支えられていますか？イナファ’ マオレクはありますか？



東北にたどり着いたとき、山に夕暮れの霧がかかっていました。山の周りにドラゴンが飛びまわり、ショベルを持った働き者のアリが土の山の上を動き回っていました。ポーポキと仲間は、若いトラたちが踊ったり花火をしたりしているのをみました。沿岸地域のトラたちはとても親切で、おうちとお話をポーポキと仲間に分けてくれました。



ねこは水が嫌いというけれど、沿岸地域に住んでいたトラたちのまちにきた水はだれも嫌うでしょう。トラたちは海でさかなをとって生活していたけれど、地震によって海が建物より高い波になってしまいました。波から逃げそこになったトラもいます。若いトラは話をしてくれました。年配のトラが若いトラたちの手足まといにならないため、「先に行

け！」と叫んで、若いトラの安全を確保しながら自らが波にのまれたことも。大きな波がやってきた間もないうちに、さとにゃんが病気になった動物たちに薬を配りに来ていました。彼女は、水だけではなく、火事による被害について話しました。彼女は仲間に言いました。「自然は強い！すべての動物は、自然の力を尊重すべきだ！」、と注意してくれました。



このような話を聞いて、ポーポキ、みによにゃん、イサにゃんは涙ぐみました。出会ったトラーさんたち人ひとりに、「今は平和ですか？」と聞いてみました。答えは、それぞれ違っていました。どのトラさんも「ノー、まだ平和にはなっていない」と答えました。あるトラたちは、新しいおうちができるまで、いまだに狭いオリで暮らしていました。トラたちは、かつて家やレストランなどが立ち並んでいた跡地に、一生懸命に働くアリが運転

する、煙やいやなおいを吐き出す巨大な金属の機械を見て、怖がっていました。金属の機械は、山から土を持ってきて、波によって二度と被害を受けないために巨大な壁を作ろうとしていました。でも、トラたちは、安心していませでした。壁はあまりにも高いため、海が見えなくなりました。また波が来ても、それをどうやってわかる？あるトラたちは、金属の機械やそれを操る所有者のネズミは、家や学校をつくるためのお金を全部、壁を作るために使ってしまった、と苦情を言っていました。トラたちは、壁が土だけではなく、ウソでできていることを懸念していました。

次は、ウサギの都市に行きました。そこでポーポキと仲間は、やわらかい地面に寝そべって日向ぼっこを楽しむことが大好きだったウサギたちに会いました。彼らは、日本中の人たちがおいしく食べていた桃を作っていました。眼に見えない毒が来てからはすべてが変わりました。



ウサギの都市では、ウサギの王子たちが「すべては大丈夫だ！」と言って、眼に見えない毒を怖がる必要を否定していました。それを聞いたほとんどのウサギたちは、何も心配せずのんびりと陽に当たりながら桃を育てることを何よりも望んでいたのも、そのことばを信じようとしていました。でも、信じていないウサギもいました。彼らは、土や水の毒を探し出す機械を手に入れました。そして、ウサギの都市だけではなく、南にある動物の首都や海を越えて

グアム島まで毒が広がっていることがわかりました。

これを聞いて、東北を訪問しているポーポキと仲間は悲しくなりました。彼らは、すべての友だち、とくに新しいトラやウサギの友だちが安全に暮らせることを願っていたからです。この目に見えない毒はよくないと思い、作ることも使うこともとりやめるべきだと思いました。ポーポキたちは、この毒は、平和の正反対だと思ったのです。

ほとんどのウサギは、眼に見えない毒について話したがりませんでした。このウサギたちはひたすらおうちに帰りたいがっていました。彼らが望んでいたのは、再びウサギのエサ店で買い物し、子ウサギを学校に通わせ、そして再び桃を育てることです！ウサギの都市では、ウサギたちが互いに「がんばれ！がんばれ！」と言っていました。がんばれば、なんとかなる、と！



でも、みによにゃんは心配していました。「目に見えない毒が土に残っていれば、がんばっても強がっても無理です。目に見えない毒から自らを守ることにはなりません。ウサギは賢くならないといけないのに、どうして水や土にある目に見えない毒を気にしないのかな。」

ポーポキは頭を横にふりました。「ウサギたちも、私たちみんなと同じように、毒のことがこわいよ。でも、同時におうちに帰りたいし、地震の前に感じていた平和を再び感じたい。」それは危険なことです。問題を無視するだけでは、安全にはなれません。

イサにゃんは、怖がりました。ウサギたちのまんまえにいるのは、怒っている大きな、うなっているモンスターです。ウサギたちの家族を脅威にさらしている。なのに、ウサギたちは、怒っているモンスターがいなくなることを祈りつつ、背を向けるだけ、とイサにゃんが心配していました。



ポーポキと仲間、本当の平和は、真実に基づいていなければなりません、と考えました。なぜなら、そうでないと安全も安心もできない、と思ってからです。自分、家族、そしてあなたが面倒をみている周りの動物たちにウソをつけば、安心するかもしれない。けれど、それは本当に安全？それは平和？平和は、現実を避けて自らが作ったシャボン玉の中で炸裂を常に心配しながら暮らすこと？そのシャボン玉の外にあるものを常に怖がっているのなら、それは平和？



ポーポキと仲間は、ウサギたちが平和を見つけられるように願っていました。けれど、眼に見えない毒があれば、平和が見つかることは不可能だと感じました。だれもが、二度と目に見えない毒を作ろうとしないように、世界中の動物たちにこの教訓をしっかりと受け止めてほしい、と思いました。

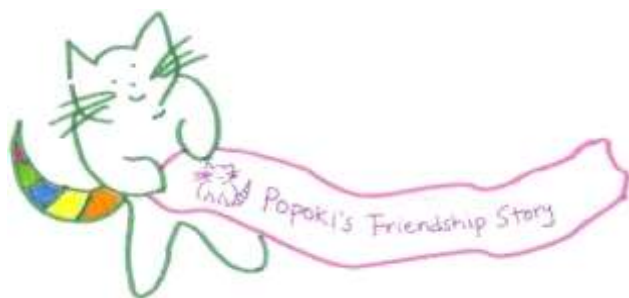


ポーポキと仲間は、旅行中にたくさんの勇敢なトラやウサギに会いました。ポーポキたちは、美しい花、壊れた建物、汚染された土の写真を撮りました。砂浜に同じものが二つないある貝殻のように、たくさんの異なる物語を集めました。東北の勇敢な動物たちはみんな、同じメッセージを伝えようとしました。「私たちは、まちや村で平和を探しています。近くからも遠く離れたところからも支援が必要です。」大きな家に住み、良い服を着るねこたちにも、金属の機械の所有者であるネズミにも、子ねこや子犬のお金を奪い取り、銃や刀を買いたがっているドラゴンたちにも伝えたい。自らのことだけではなく、みんなのことを気づかなければならない。とくに、汚染された土で暮らす仲間や、どんどん高くなる壁の影にのめりこんでしまいそうと不安げに眺めつづけている仲間のことを忘れてはいけません。みんなで協力しあい、お

互いを気づきあわなければ、いつまで経っても平和を実現することができないのかもしれない。

みによにゃんとイサにゃんは、グアム島に戻ったら、東北の物語をまわりの動物たちに共有することを約束しました。でもその前に、日本で知り合ったすべての動物仲間にお礼をこめて、このお話をお届けしたい。ありがとうございました。





ポーポキ インタビュー*

関東からの原発避難～大学生 U さんのケース～
インタビュアー：出口裕加里（神戸大学大学院
国際協力研究科）

2011 年 3 月、東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響で、多くの人々が自分の生活を犠牲にし、あるいは諦め、避難を強いられました。今回は、関東から兵庫県に避難し、現在も避難生活を続けながら兵庫県の大学に通う若者をインタビューしました。

U さん(神奈川県→兵庫県)

○発災当時の様子

発災当時、高校 2 年生だった U さんは、学期末テストを終え、体育館で部活動に励んでいた。その日はなんとかご両親と連絡をとることができ、迎えに来られたご両親と一緒に徒歩と電車でその日の深夜に何とか自宅にたどり着くことができた。

12 日に東京電力福島第一原子力発電所の一号機が爆発したとの報道があり、いわゆる「生活内避難」がはじまった。いつでも避難ができるように荷物をまとめて玄関先に置いておくようにとご両親から言われ、家の中では窓に目張りをし、換気扇は使用禁止、洗濯物は外に干さない、などのルールを決めた。食べ物については、なるべく買いだめしていたものを食べ、生鮮食品については産地に非常に気を使った。家の外ではマスク着用、外食もなるべくしないように心掛けた。U さんは学校が始まるまでは外出も禁止となり、家で一人でテレビを見て過ごしたという。

事故後すぐに、このように被爆を避ける行動をとれたのは、ご両親が原発や放射能について豊富な知識をお持ちだったからだ。当時高校生だった上野さんは、原発や放射能に対して関心もあまりなく、知識も持っていなかった。そのため被爆に対する危機感も薄く、被爆を避けるためにご両親がとられた多くの行動を、不思議な気持ちで見ていたという。

○避難をするため、関西の大学を受験

年度が変わって高校三年生になり、大学受験を意識するようになった。U さんは東京の大学を希望していたが、「関西の大学を受けないか」と両親から言われたことがきっかけで、どちらの大学を受験するべきか非常に悩むことになった。受験勉強そっちのけで放射能や原発について勉強した。発災以来続けていた生活内避難の状態が辛く、このまま関東で生活続けることや低線量被爆への不安も大きくなっていったため、実家を出て関西の大学への進学を決意したという。

U さんは関西の大学に無事合格し、2012 年 4 月から大学近くで一人暮らしを始めた。2015 年 3 月まで一人暮らしを続け、2015 年 4 月からは関西で再びご両親と一緒に生活を始める。お母様は避難の際に仕事を辞められたので現在休職中、お父様は退職の予定を変更して転職し、現在もお仕事を続けられている。

原発事故により生活の様々な面で変更をしいられ、被爆への不安にさいなまれた。上野さんはそのことに対して憤りを感じつつも、悲壮感はなくむしろポジティブであるように見えた。「原発事故がなかったら、社会や政治のことに興味がないままだったかもしれない。原発事故があったことで、見える世界が広がった」と、穏やかな笑顔を浮かべながらも堂々とそう言う U さんに、人間的な強さを感じ取った。

しかし、避難生活をする中で、複雑な思いを抱くこともあるという。U さんは、自分が避難しているということは信頼している友人数名以外には明かしていない。避難当初は、避難や放射能についてご両親以外に話せる人はおらず、友人にも言わないようにしていた。友人との仲が深まって外出に出かけた際、どうしても食材の産地が気になり、避難のことを打ち明けた。その時、「福島だけのことだから大丈夫でしょ」言われたことが忘れられない。

○同世代へ伝えたいこと

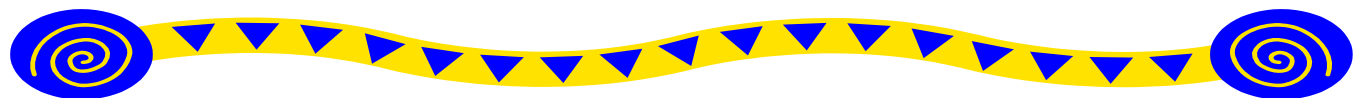
最後に、周りの友達や関西の同世代に伝えたいメッセージを聞くと、次のような答えが返ってきた。「若い人たちには、せっかく関西にいるのだから、関西でできることをやってほしい」。ボランティアのために東北へ向かうだけではなく、せっかく関西にいるのだから、自分が被爆しないための力をつけ、行動してほしい、というメッセージである。震災後、全国各地の大学生がボランティアのため東北に駆けつけた。私もそのうちの一人であった。原発や放射能についてほとんど無知だった私は、「直接の被災を免れた自分が今動かなくてはい」という思いだけで被災地に向かい、ヘドロのかきだしや家財道具の運び出しなどの力仕事に汗を流した。一応粉塵除けのマスクは着けていたものの、作業時以外はマスクも外し、軽装で過ごしていた。普段も食材の産地は大して気にかけず、食べたいものを食べていた。そのような大学生は私の周りにもたくさんいた。

U さんは言う。「放射能の影響をちゃんと理解した上で、それでも行くのだというのであれば、良いと思う。しかし、知らずに行ってから後悔する、ということだけはしてほしくない。何かあってから気づくのでは遅い」。放射能の人体に対する影響は、まだ科学的に証明されていないことが多く、社会的な合意に達していない点も多い。正しいのか、正しくないのか、わからないことが多く、こうしろああしろと誰かが命令することはできない。だからこそ、自分自身で判断するしかないのだと U さんは言う。

U さんは、「どうして関東なのに避難なの?」「福島じゃないから大丈夫なのでは?」など多くの言葉をかけられ、そのたびに複雑な思いを抱いた。また無関係・無関心を装う周囲の友人たちにやきもきしてきた。これは福島だけの問題ではないし、もちろん避難者だけの問題でもない。日本に暮らす、ひとりひとりの問題である。だから、U さんは「伝えたい」「知ってほしい」という。関東からも避難を続けなければならない状況があるのだということ、被爆についての知識や避難の背景にある思いや経験などを、伝えていきたい、とまっすぐ目を見て伝えてくれた。私も、自分事として問題をとらえ、避難者の方々が語る言葉に真摯に向き合っていきたい。そして、自分は何をすべきかを考え、行動にうつしていこうと思う。



2015年9月5日に行われた「避難サポート・ひょうご 大交流会」の様子。Uさんと一緒に参加しました。



ねこにもわからない安保法制～その2

ろにゃん

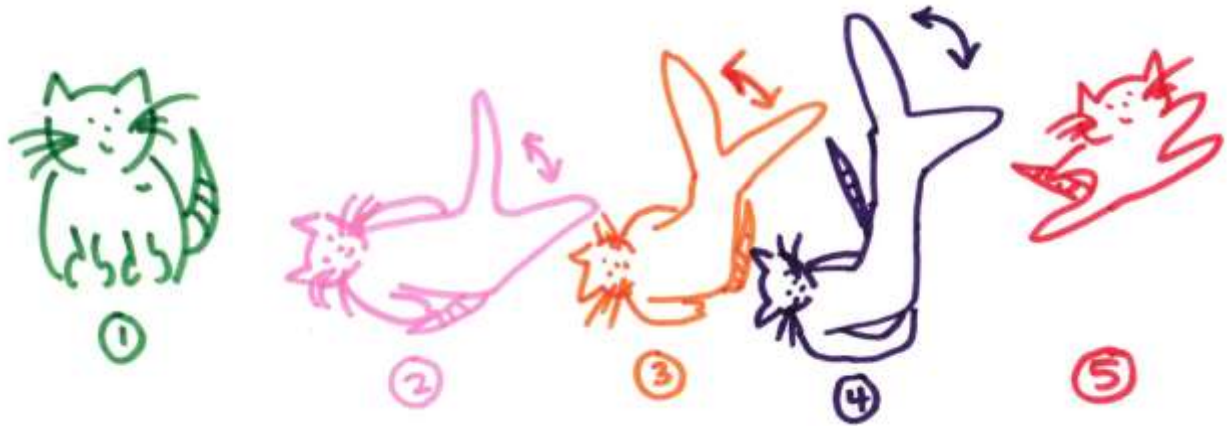


安保法案が強行採決されました。世論調査によると、75%は議論が足りなかったと考えており、反対 51%に対して賛成は 30%にすぎない（朝日新聞 2015.9.21）。そこで、私たちねこもくまもにんげんも、仕事はこれからだ！もちろん、安保法案について考え、いい続けるのがその一つ。そして、本当の意味での「すべての人が平和に暮らせる社会」を徹底議論し、その実現をしていかなければならないのです。辺野古。原発。安保。一緒にやれば、できる！！！！

ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 88

今月のテーマは、ふとももの内側のストレッチと腹筋の強化！



1. まず、いつものように、美しく座りましょう。
 2. では、仰向けになって足をのばしましょう。背中がびったり床についていることを確認してから片足をのばしたまま、ゆっくりあげてみましょう。下して、反対の足を上げましょう。
 3. つぎに、背中をつけたまま、両足を上げましょう。ゆっくり足を横へ開いて…。閉じて…。良かったら数回ゆっくりくり返しましょう。
 4. 最後に、手で腰を支えながら肩立ちをしましょう。その姿勢でまた足を横へ開いて…。閉じて…。
 5. できてもできなくてもがんばりましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！
- お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

一緒にいかが？



次回のポー会：10月17日 16:30～ 兵庫医療大学（イベント終了後）

次々のポー会：11月20日 19:15～ 神戸YMCA

10.3-4 ポーポキ at 同支社大学！ベッティ・リアドン先生と仲間たちとWS！

10.8 ポーポキはJICA研修に来られたアフリカの仲間とワークショップ！

10.9 ポーポキ・ポスター・セッション（13:00～14:00; 13:55～16:15）at 神戸大学シンポジウム。

「人間を中心としたより良い復興に向けて～文理融合による神戸大学からのアプローチ」。詳しくは：

http://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/event/2015_10_09_01.html

10.17 平和と健康ワークショップ 兵庫医療大学地域連携室。スタッフ集合:13:00。詳しくは次頁。

ポーポキの友だちからのお知らせ

・新刊案内！赤城修司『Fukushima Traces 2011-2013』オシリス 2015年3月20日。

すてきな写真集です。注文などは：

<http://www.shashasha.co/en/book/fukushima-traces-2011-2013/>

又は前田圭子さんへ。m.dodo@h2.dion.ne.jp

兵庫医療大学 地域交流プロジェクト *HUHS Workshop* *Peace and Health*

Popoki, are health, feeling/being safe and peace the same color?

ポーポキ、健康は、安全・安心と同じ色？

ポーポキ・ピース・ネットワーク



あなたも 平和のねこと一緒に
健康・安全・安心と平和について感じたり、考えたりしませんか？



平和って何だろう？健康って何だろう？安全や安心は？

普段何気なく聞いたり見たり感じたりしていること。

ねこのポーポキと一緒に平和や健康の観点から暮らしを見直してみませんか？

健康は、安全・安心と同じ色？みんなで一緒に考えてみよう！！

スケジュール Program

- 13:30 受付 Registration
14:00 「ポガ」タイム Poga Time ※ポガ：ポーポキのヨガ
14:05 ワークショップ①「ポーポキ、安心や安全、健康って、なに色？」
Workshop 1: Popoki, what color is health and being/feeling safe?
14:30 散策して平和と健康、安全・安心を探そう *雨天は室内で決行
Walk outside and look for peace, health, being and feeling safe
*In case of rain, it will be held indoors
15:10 ワークショップ②「健康は、安全・安心と同じ色？」
Workshop 2: Is health the same color as being and feeling safe?
15:50 まとめ、発表 Conclusion, presentations
16:00 解散 Dismissal
*体を少し動かしますので動きやすい服装と靴でお越し下さい。

日時 2015年10月17日(土曜日) Date: 17 October 2015
14:00~16:00 14:00-16:00
場所 兵庫医療大学 地域連携実践センター HUHS, community center
対象 どなたでも参加できます。 Participation: Anyone can participate
定員 30名 Maximum number: 30 participants
会費 100円 Fee: 100 yen
申込方法 FAX(裏面)にてお申し込み下さい。 Registration/Information
問合せ先 兵庫医療大学 地域連携実践センター Phone HUHS 9:00-16:00
電話 080-6204-8793 (受付時間: 平日9時半~16時)
担当者 兵庫医療大学薬学部 桂木聡子 HUHS Satoko Katsuragi

Popoki in the News

ポーポキ通信のバックナンバー：<http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ！ <http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』『神戸新聞』（貝原加奈 2014.4.25 28面）
- 「ボランティア 37 団体に助成 大和証券福祉財団」『神戸新聞』（2013.8.23 朝刊 地域経済 8面）
- 「原爆の熱線で焼き付いたー “人影”再現、非核誓う」『神戸新聞』（2013.8.7 朝刊 22面）
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひとと抄」『読売新聞』（2013.2.16 夕刊 4面）
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』 2012.10.29（「今、平和を語る」、夕刊、1面）
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.” *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に 9 条がある」NO : 66 2012 年 5 月 12 日[子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60 メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』 2012.1.21（兵庫・29面）
- 「平和祈る声まとめ本に」斎藤雅志 『神戸新聞』 2012.1.19（伝える 1・17 3・11、22面）
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peae? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing” (Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 『「ポーポキ、平和って、なに色？」の背後にあるもの』（連載）とさぼりライフ第 19 号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ：こくさいのまで⑮(パレスチナについて)『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる！」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界：被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 ‘Heart Lines’ 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代「ポーポキ、平和って、なに色？ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』（日本汎太平洋東南アジア婦人協会）No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第 2 号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色？』『私のいち押し』奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243（関西外大通信）
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第 35 号 2009.6（北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」）「新刊紹介：『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック 2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第 2 弾を出版」（斎藤雅志）神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色？」 KOBE YMCA NEWS「神戸青年」 2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色？」 KOBE YMCA NEWS「神戸青年」 2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか？」 RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ！！プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組。(リンクは現在無効)
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会『世界人権宣言』ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500 円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8（アジア女性交流・研究フォーラム）
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは？」 Kumamoto YMCA News 10; Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル制作」 2008.10.8 10 面





私にとってのポーポキ

バシールにゃん

ハロー、ポーポキ！今日はどう？お腹空いてる？何食べたい？ステーキ？フライドチキン？フィッシュカレー？刺身？それとも君はベジタリアン？じゃ野菜はどう？これは近ごろ、引越し先の近所で会った野良猫への挨拶と質問だ。彼の応えは、ふわふわした尻尾を振って、ニャンニャーンニャーンと低い鳴き声をあげること。それは「イエス、イエス、イエース」という意味だろう。おそらく彼はどんな食べものだろうがこだわっちゃいない、特に、お腹が空いて、彼のもとにやって来るものなら何でも食べようと待ち構えているときには。おもしろいことに、帰宅時、私は彼が同じ場所で同じ時間に待っているのを見かける。私たちはお互いを知るようになり、交友を楽しんでいる。彼は実に陽気で好奇心旺盛、フレンドリー、それは私にポーポキを思い起こさせる。そこで私は彼の中にポーポキを見出そうとする。彼はバッタと遊び、トンボに触れようと、時にはバイクの上に座って蝶や鳥を見つめている、まるで自分も空を飛びたいかのように。彼は風の音を聞き、空を見上げ、時には海の景色を眺めている。私には彼がとても愛おしく、そして美しく見える。

神戸の山の手にはたくさんの野良猫がおり、彼らは常に食べものや隠れ家を求めて動き回っている。増え続ける野良猫は、多くの日本の地方自治体にとって厄介ごとのようだ。『ジャパントイムズ』によると、自治体は毎年、野良猫の数を減らそうと取り組んでいるという。昨今の見積もりでは、全国で13万匹を超えるとのこと。（ジャパントイムズ：2013）中にはこの増加をとめる解決策として、野良猫の殺処分を決定したところも。皮肉なことに、別のレポートでは、日本は動物にとって天国のようだと述べている。それは、日本のマーケットでは多くのペット用品が手に入ることから（ジャパントイムズ：2014）、日本人が動物好きだと言いたいのかもかもしれない。しかしそれは飼い主が、野良猫を引き取るのではなく、ペットショップから購入しているケースにだけ合致する話だろう。多くの動物愛護団体は、野良猫を救済しようとしているが、それでも問題は存在する。これをどう処理するかだ。答えを見つけるのは難しいだろう。



解決策の一つは、野良猫や捨て猫を隠れ家に置き、彼らの世話に関心がある人を見つけながら、徐々に引き取ることだろう。それでもなお、個人的見解だが、日本のたいていのアパートやマンションはペット不可なので、問題は残る。たとえ許可されても、セキュリティ上の理由から、ペットの追加料金がかかる。それが、野良猫を引き取る、あるいは家に持ち込む意思を妨げることになる。

動物保護のためには誰もが配慮すべきことが課題である。なぜ我々は、人間、動物、異なる色・種・性などにかかわらず、共に生活し、互いの側に寄り、大切にすることができないのか。なぜ「異質」の感情を持つのか？既にこの種の質問は多くなされている。私にはその答えは分からないが、ポーポキが連帯、共存、愛、そして平和について私たちに教えてくれるとき、私はそこに答えのヒントを見出すのだ。

さらにご協力ください！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック 3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011 年に起こった東日本大震災をきっかけに活動をしており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を 2012 年 1 月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動が続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.com へお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)



<http://popoki.cruisejapan.com>

郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一口 1500 円 何口でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!!